

平成 29 年度 第 6 回名取市総合教育会議 議事録

1 会議の年月日

平成 29 年 12 月 21 日（木）

2 会議の場所

名取市役所 6 階東側会議室

3 出席者

山田市長、瀧澤教育長、武田教育長職務代行委員、相原教育委員、浅野教育委員
洞口教育委員

4 欠席者

なし

5 傍聴者

1 名

6 説明のために出席した者

相澤教育部長兼庶務課長事務取扱、及川理事兼学校教育課長、
大友教育部次長兼文化・スポーツ課長、五十嵐生涯学習課長、鈴木指導主事、
柴崎図書館長、佐藤教育部企画員兼庶務課長補佐、高橋主幹兼庶務係長

7 議題

- (1) 「新図書館」について
- (2) 「ICT教育の充実」について

8 開会時間

午後 1 時 30 分

9 会議の概要

相澤教育部長兼庶務課長事務取扱

それでは定刻となりましたので始めさせていただきます。

教育委員の皆様におかれましてはお忙しいところ、「第 6 回名取市総合教育会議」にご出席をいただきまして大変ありがとうございます。

会議に入ります前に、お手元にご用意をいたしました資料の確認をさせていただきます。1枚ものの「第6回名取市総合教育会議次第」と、あとホチキス留めをしております「第6回名取市総合教育会議資料」の2つをご用意しております。よろしいでしょうか。

また本日の会議は事前にご案内のとおり、公開となっておりますのでご了承お願いいたします。

なお、本日の会議の内容につきまして、録音をしたいという旨、申し出がございます。この申し出に対して、許可をしてよろしいでしょうか。

全出席者

はい。

相澤教育部長兼庶務課長事務取扱

では、申し出につきましては、許可するというご意見をいたします。

それでは只今より会議を開催いたします。

開催にあたりまして、山田市長よりご挨拶をお願いしたいと思います。

山田市長

皆さんこんにちは。本日は、大変お忙しいところ総合教育会議にご出席をいただきましてありがとうございます。

本来でしたら10月23日に開催する予定でしたが、台風21号の影響でそちらの対応を優先させていただきまして本日に延期ということになりました。

おかげさまで、台風のほうの対応につきましては迅速に行動することができました。

本当にありがとうございました。

今日は6階東の大会議室ということで、会議室が取れなかったということだと思いますが、非常に広い部屋で大変眺めがいい所で皆さんと活発な議論ができるなというふうに思っております。

また10月1日から佐々木靖子前委員の後任として洞口ひろみ委員に就任していただいております。ぜひ今後とも子ども達のためによりしくお願いします。

本日議題を2つ設けておりまして、1つは「新図書館について」もう1つは「ICT教育の充実について」ということでもあります。ぜひ皆さまから忌憚のないご意見をいただいて、限られた時間ではありますが、充実した中身にしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

相澤教育部長兼庶務課長事務取扱

ありがとうございました。それでは、(3)の議題のほうに入っていきたいと思います。

ここから先につきましては、名取市総合教育会議設置要綱第4条第3項によりまして、

市長が議長として議事をすすめていただきます。

市長よろしくお願いたします。

山田市長

それでは議題に沿って進めてまいります。よろしくお願いたします。

まず始めに議題の(1)「新図書館について」であります。

新図書館につきましては、来年、平成30年の12月にオープンを目標に現在内装工事に着手をしているところでありますが、名取市図書館では新図書館でどんなことをしたいか、何ができるかという事を考えてもらうためにライブラリーミーティングを企画して実施をしてきているところであります。新しい図書館につきましては施設環境がこれまでより格段に向上するということから、提供するサービスについても更に充実させていく必要があると捉えています。委員の皆さまとそのような観点から意見交換できればいいというふうに思っております。

まず事務局の方から説明をお願いします。

柴崎図書館長

それでは私の方から「新図書館について」ということで新しい図書館で行いたいと考えております主に「図書館サービス」について、資料に添ってご説明申し上げます。

まず1番目、新図書館のテーマでございます。これは新名取市図書館整備基本計画の中でもうたっているものでございますが、「やすらぎ・つどい・ひろがる」というこの3つのキーワードをメインコンセプトといたしましてサービスにつきましても具体的な計画をたててまいりたいと思っております。

ちなみにこの3つのキーワードからイメージできる図書館像でございますが、「やすらぎ」という言葉からは、やすらぎ憩える図書館、「つどい」という言葉からは感動を共有できる図書館、「ひろがる」という言葉からはひろがり想像する図書館ということがイメージできるかと思っております。

次に2番目といたしまして、市民協働での図書館運営ということで、図書館のほうで考えております市民協働の考え方についてご説明したいと思っております。

まず1つ目といたしまして、図書館と協働する市民活動の枠組み作りというのをあげております。図書館では現在新図書館の開館に合わせて、図書館と協働する市民組織を立ち上げたいと考えておまして、その前段といたしまして今年度これまで3回のワークショップ、「ライブラリーミーティング」と銘打ちまして3回のワークショップを開催いたしました。このワークショップでは新名取市図書館での名取らしい市民協働のあり方を探るということで具体的には1回目では「できたらいいなこんな事、新図書館で私達がしたい事」をテーマに参加者からできる限りの願望をあげてもらい、それらをおおまかにグルーピングしてみんなで共有するという作業を行いました。2回目では1回目が出た皆が共感する願望を行政としてできる事、市民活動として市民が主体的にできる事、

それから行政と市民の協働があってはじめて実施できる事に分けて洗い出しを行いました。3回目では、どの様な協働が可能なのか、必要な枠組みは何か、枠組み実現のために今必要な事は何かを考えて具体的なプランに落とし込むという作業をいたしました。

今年度のこのワークショップを踏み台にしまして30年度の早い時期に新組織が発足できればと思っているところでございます。

次に、市民を巻き込んだ事業展開として、具体的にどの様なものが考えられるかというものをいくつか例として挙げてみました。1つ目としましては新図書館では10代の若者を対象とした「ヤングアダルトコーナー」という場所を作る予定にしておりますが、市内にある学校と連携しながら学生と一緒に事業企画を行えればと考えております。

例えば「ビブリオバトル」のようなイベントであるとか、各校持ち回りで企画棚を作るであるとかなどが考えられるのではないかと考えています。

また、市内で活躍している人などを招いて講演とかディスカッションなどを行うライブラリーカフェのようなイベントであるとか、何年か前に図書館でも行っておりましたが、本と音楽を融合させたミニコンサートであるとか、市民からのアイデアをもらえばいろいろなイベントを企画することができるのではないかと考えております。

次に市民と共に作り共に歩む図書館でございまして、例えば友の会のような市民組織ができましたら、それはあくまで行政と対等な関係にあるということが前提になるわけですが、行政、市民それぞれの立場で新しくできる図書館を大きく育てていく、それを理想としたいと考えております。

インドの図書館学士の中にランガナタンという方がいるのですが、「図書館は成長する有機体である」という有名な言葉を言っています。いかにもインド人らしい哲学的な言葉なんですけども、これは社会環境の変化に伴って図書館に求められる機能が変わります。図書館は利用者のニーズにより、ニーズを反映させながら発展していかなければならないという意味です。市民の皆さんの声を聴きながら同じ目標に向かって共に歩んでいければというふうに考えております。

次に3番目といたしまして、新名取市図書館の特色あるサービスについてご説明いたします。

まず1つ目としまして、地域情報の発信を書かせていただいております。これまでも図書館では郷土資料の収集、保存、提供についてはとても大切なものと考えて取り組んでまいりましたが、新図書館では更に強化拡大してまいりたいと考えております。

具体的には様々な機関と連携して情報発信コーナー内での企画展示を行いたい。また、子ども達の郷土に関する学習支援についても、これまで以上に力を入れてまいりたいと考えております。

さらに、一方的な情報発信だけではなくて、情報発信コーナーを使って市民の方々もそこから情報発信できるようになればというふうに考えているところでございます。

次に郷土資料のデジタル化ですが、もうすでに準備をすすめているところでござい

すが、昔の記録を残して記憶の風化を防ぐことを目的に、古い写真や「広報なとり」、昔話の語りや郷土芸能の動画などをデジタル化します。そしてそれらをホームページ上であるとか、あるいは新図書館の情報発信コーナーのパソコンなどで見られるようにしたいというふうに考えています。

また、市内の公共施設など、街中のお店などにQRコード付きのステッカーを張らせてもらいまして、そこにスマートフォンとかタブレットをかざすと周辺の昔の景色を見ることができる、そのようなものを作っていきたいと考えているところです。

次に、テーマ性をもったコレクションの構築ですが、名取に関連するテーマを選び、重点的な資料の収集を行ってまいります。すでに空港や飛行機、カナダ関連資料、震災関連資料につきましては重点的な収集を行っており、一般の棚とは別に配置しておりますが、新図書館でも継続して行なってまいります。また、地元企業でありますサッポロビールとの連携の一環としましてビールに関する資料を集めたり、県立がんセンターと連携してがんに関する情報コーナーなども作りたいというふうに考えております。

最後に4番目といたしまして、先進図書館の事例をいくつかご紹介させていただきます。ここでは主に、市民協働という観点から先進的な取組を行っている図書館を選んでおります。まず1つ目ですけれども、兵庫県伊丹市にある「伊丹市立図書館ことば蔵」でございます。こちらは2012年に開館しておりますが、市民と共にイベントを企画する交流フロア会議を設置して市内書店と協力した『帯ワングランプリ』であるとか、地元商店主が講師となる『まちゼミ』であるとか、『本を使った婚活イベント』など様々なイベントを市民がアイデアを出して図書館で開催するというそのようなものを行っているところでございます。この図書館は2016年の「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー」の大賞を受賞されています。次ですが、佐賀県の伊万里市の「伊万里市市民図書館」でございます。こちらは大変有名な図書館で、「東の浦安、西の伊万里」と言われるくらいの図書館なのですけれども1995年に開館するに当たりまして、「伊万里を作り・市民とともに育つ・市民の図書館」というものを目標に掲げて、行政と市民が一緒になって市の図書館の整備を行ったという経緯がございます。「フレンズいまり」というのは今でも活発な活動を行っておりまして、市民協働モデルの理想像のひとつと言われておりまして昨年度「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー」では「ライブラリアンシップ賞」を受賞しております。最後ですけれども、福井県鯖江市の「鯖江市図書館」こちらは1997年にオープンしております。友の会の活動がたいへん有名で、自主的に運営する「鯖江ライブラリーカフェ」というものがたいへん有名でございます。こちらは市内県内の専門家を招聘して館内にあるカフェを使って講演とか交流を行っております。毎月行っておりましてもうすでに100回以上開催しております。また、地場産業支援の取り組みであるとか鯖江市のオープンデータ政策との連携であるとか、女子高生による企画会議の開催であるとか様々なユニークな事業を行っている図書館でございます。こちらの方も2014年「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー」の大賞を受賞している図書館でございます。

以上で私からの説明を終わらせていただきます。

山田市長

はい、ありがとうございました。

今、新しい図書館のテーマ、そしてまた市民協働の運営、特色のあるサービス、先進事例について図書館長からご紹介いただきました。まさに作り手の思いがたくさん詰まっている図書館だなと思いますし、これに我々市民の思いをしっかりとあわせてですね、いい図書館にしていけたらなというふうに思います。

先ほど冒頭申し上げたとおりですね、まあ新しい図書館になるにあたって提供するサービス等も充実させていきたいという思いから、その点について皆さんからご意見をいただけたらというふうに思いますが、武田先生、思いがたくさんお有りだと思いますので、どうでしょうか。

武田教育長職務代行委員

最後の方がいいです。

山田市長

最後の方がいいですか。じゃ、先に言われちゃうとですね。どうでしょう。どなたか。じゃ目が合ったので浅野さん。

浅野委員

はい。30年の12月オープンということで、私も相互台なので図書館も遠いということで、今ある図書館も実は2、3回しか行った事がなく、相互台の人に言わせると今の図書館はどこにあるのかもわからないというの方がちょっと多かったですりもしますが、今度は駅前ということで分かりやすい場所ということで認知度も上がると思うので期待はしているんですけども、ただやっぱりこちらの方の人たちにはやはり遠い、ちょっとここから離れている、使いにくいということと、子供向け小中学校と連携ということではありますが、小学校中学校図書館の活動と共に、やっぱりきちんとしないと、名取市の図書館に行ってみたいと思えるような企画とかがいっぱいあると土日とかで来れる日に限りますが、子ども達は楽しそうな企画がたくさんあるといいかなというふうに思いました。

あと、子ども達というのがありますが、私、ゆりが丘公民館に行った時に定年退職された方達の男性のみの講座をやった時に、その人たちに1回だけビブリオバトルをちょっとしてもらったことがあってその時には図書館の司書さんにもご協力いただいて実施したんですが、ビブリオバトルが何であるのか分からない感じの時にやはり説明をして実施したんですが、とても楽しくできてこういう年代の方達もちゃんと受け入れてくれ

て好きな本を一生懸命紹介してくれて、やって良かったなというふうに思ったこともありましたので、いろんな世代の方にそういう機会を与えてもらえるのもいいのかなというふうには思いました。

山田市長

はい、ありがとうございました。

場所としては分かりやすいけど、特に西側の地域にとっては離れてるということでアクセスの問題について話をいただきました。また、子ども達が喜ぶ企画とかビブリオバトルについては楽しくできましたということをご紹介いただきました。ありがとうございました。

アクセスについては全体の公共交通についても大きな集客施設になることと思いますので、是非考えていきたいと思います。名取駅が一日1万2500人、これ宮城県内で3番目に多い乗車数で、仙台駅、あおば通り駅に次ぐ乗車数となっており、これは山形駅と秋田駅より多いんです。というようなことから駅前是非常に大きな集客の拠点であるというふうに考えておりました、館長、集客数の見込みはまだでしたか。

柴崎図書館長

見込みはおおまかなところで一日千人位の来館者が来られればいいかなというふうに考えていますが、まだ正確には見込んでおりません。

山田市長

はい。いずれ大きな集客になると思いますのでアクセスの件は全体の中で考慮していかなければならないなと思っております。

他に何かご意見は。

洞口さん何かございますか、感想でも結構です。

洞口委員

只今館長さんの方から本当に期待できるようなご説明をいただきまして、今すばらしく期待しているところでございます。せっかく名取駅前ということで中心部にできるということで地元も含めまして大きく期待しているところです。せっかくできるのですからサービス提供もより良くしていただきたいということが私の願いであります。

その中には、今デイサービスなんかでも施設めぐりで結構行っていますので、たぶんできあがると各名取市のデイサービスなんかでも利用してくるんじゃないかなと思います。それに関してそうするとトイレの問題とかいろいろあると思うんですね。それから若い世代で乳幼児を持つお母さん達に憩いの場、先ほどやすらぎの場ということでやはり家にこもっている若いお母さん達がやはりやすらぎを求めて図書館に向かって来るんじゃ

ないかなと思います。そのためにですね、トイレの話ばかりで申し訳ないんですけど、そこにベビーのおむつを替えるベッドを置くとかですね、授乳室の設備、そういうのはちゃんとできてるかと思うんですけど、確認のため私の方でも言っておきたいなと思って言ってるんですけど、あとキッズルームそういうのもやっぱり必要になってくるんじゃないかなと思います。そういうところですね、ちょっと細かいところなんですけど。どうせやるんなら大きなサービスも必要なんですけど小さなサービスもやはり考えて作っていただきたいなというのが願いです。

山田市長

はい、ありがとうございました。

今あの、多様な方が利用される施設だということで、その多様な方に対する細かな気遣いも含めてしっかり検討していただきたいと。

現状、先ほどのノーマライゼーションというか障害のある方に対する利用でとか、それから若い乳幼児を連れてお母さん達の利用であるとかを想定して、ある程度対応されている、今考えているようなことがもしあれば、お願いします。

柴崎図書館長

小さなお子さん連れのお母さん達も安心してそこで過ごしてもらえよう工夫をいろいろと考えております。授乳室ももちろんございますし、おむつ替えのベッドなども用意するつもりでおります。お話しの部屋をわりと広々ととるつもりでおりますし、ここでお子さん達お母さん達が靴を脱いでゆったりと過ごして本を見ながら子どもと一緒にゆっくり過ごせるような、そのような事もできるようにと考えております。いろいろな時代の様々な人達がそこで居心地良く過ごせるような環境づくりというものを考えて作っていきたいというふうに思っております。

山田市長

ありがとうございました。

よろしいですか、初めてですけどすばらしいご意見をいただいてありがとうございました。それでは次に相原さん、お願いします。

相原委員

今お話あったように、駅前ということなのでその場所を本当に有効に活用できてやれる方法を皆で考えていく必要があるんだろうというのが1つと、それからもう1つ、ちょっと私の中で気になっているのは、学校の図書館と具体的にどんなふうに連携していくのか、そのへんをもう少しあってもいいのかなと。もう1つは、今説明あったように、いろんな人達に利用してもらおうということからすると、障害者の関係についてなん

か配慮とかあるいはその貸し出しのそのスムーズにできることとかっていうこともちょっと工夫があったらより良くなるのではないかなというふうに思っています。

山田市長

はい、ありがとうございました。

駅前としての魅力を十分出してほしいということと、学校図書館との連携についてこれどうですか。今の現状は。

柴崎図書館長

今回特に書かせていただきましたサービスにつきましては全体の中の一部でございまして、学校連携につきましても今まで同様と言うか今まで以上に力を入れてまいりたいと思っております。現状といたしましては、今図書館の中で学校支援センターというものがあまして、そこで支援センター業務を行っているわけでございます。今年度は学校図書館と図書館同士のネットワークのシステムも構築したところでございますので、新しい図書館にまいりましたらそれらもフルに活用して活発な図書館教育活動ができるように図書館も全力でサポートしていきたいというふうに考えております。

山田市長

障害者の方への配慮というのは。

柴崎図書館長

障害者の方、図書館に来られる方につきましては図書館の中で十分なサービスを提供したいと思っておりますが、図書館に来られない方っていうのもたくさんいらっしゃいます。そのような方達には図書館がじっと待っているだけではなくて、こちらから出かけて行って図書館のサービスを受けられるっていうような事も考えております。今現在といたしましても配送サービスを行っておりますので、新しい図書館に行きましても引き続きやってまいりたいと思っております。

山田市長

すみませんね、議会みたいになって。

ありがとうございました。

他に何かありますか。

瀧澤教育長

新しい図書館について形が見えてきて、駅前に早くできあがるといいなという声を私もたくさん聞きます。

新しい図書館に向けての準備は、ずっと前から武田委員さんが生涯学習課にいらっしやった頃から計画を作って、やっと日の目を見るということで、本当に皆さん期待して待ってらっしゃるんじゃないかなという感じがしております。

その中でいくつか今のこの資料なんかを見て感じる場所があります。ちょっと話が逸れるんですけども、名取市の給食センターが新しく震災のちょっと前に、半年くらい前にできたわけですけども、あの時にもある方から、名取市の給食元年というふうに位置づけたいんじゃないかというふうなご指摘をいただきました。私はそれまでの3調理場でも職員の方とか一生懸命給食作りをしていたんですね。いい給食作りを提供していた。ただ施設のいろんな制約でできない事もあるなかでやってた。それを継承していくっていうふうな視点が、どうしてもまず基本じゃないかなっていう感じがするんですね。

今の図書館、震災で被災しているいろんな所の支援で建物ができて運営してますけれども、私もここに教育長として来て4年目になりますけれども、図書館は本当によくやってるなあという感じがしてるんですね。子供向けのいろんなイベントも盛りだくさんやります。お話しひろばとかいろいろやりますし、あと「Let's 理科読」という私も初めて知った取り組みとかにも、かなりの親子連れが来ています。また、今年2回目になる「図書館を使った調べる学習コンクール」、これも多くの子ども達が応募しています。それだけじゃなくて今の図書館の中で、かなりたくさんユニークなすばらしい取り組みがされているということを感じたんですけども、まずはそれを新しい図書館の中でもきちんと継承してやっていくことが大切だと思います。そこに今まで出てたような新しい地理的な利点、駅前にあるっていう所とかを最大限に活かして、これまでやりたくてもできなかったことを、どういうふうに盛り込んでいくのかということだと思います。

図書館は本とかがある建物ですけども、学校の図書館でも学校によっては、ただ本のある部屋になってることもあるんです。有効に使われていない。そこを有効に使って生きた図書館にしていくっていうふうなところは、やっぱりそこに携わる人の力じゃないかなっていうふうに思うんですね。

あの場所的な利点を生かしながらどんなことをやっていくか、ここに出てきているところを是非積極的に取り込んで、いい図書館作りを目指してほしいなっていうふうに思っています。

また、市民協働について、私もライブラリーミーティングに1回目と3回目にちょっと顔を出させていただいたんですけども、先進地の市民協働を見ると本当にこんなところまで市民の方がやっているのかと感じます。例えば掃除も全てボランティアがやるのか、ただこれから組織を作っていくなかで最初からあまり市民に求めすぎたのでは長続きしないんじゃないかなという気がするので、まず組織を作って市民の方の意見をお聞きしながらどんなことができるかと無理のないところからスタートしていけばいいのかなというふうに思っています。

それから情報発信のコーナーとか「テーマ性を持ったコレクションの構築」あたりで、県立がんセンターとの連携も必要かと思えます。この間の医療行政懇談会でがんセンターの方からも、直接図書館と連携をしていきたいというふうにお話をいただきました。名取市内は、がんセンターもありますし、ここにも出ているサッポロビールとか、あと教育施設も市長さんの広報のコラムにも書かれていましたけれども、小中学校、幼稚園保育所はもちろんですけれども普通高校、農業高校、高等専門学校、大学もあるし通信制の美田園高等学校もある。そういったいろんな名取市内にある機関とうまく連携して情報発信とかコーナーを作っていければいいものになるんじゃないかなと思えます。

私はどちらかというと一緒に事務局側として計画しているほうですので、そういったいろんなご意見を聞きながら良い図書館を作っていくようにこれから取り組んでいきたいなと、来年12月オープンを目指していきたいなと思っております。

山田市長

はい、ありがとうございます。

最後の各教育機関との連携ということについては、ぜひ何かの形で具現化していければなと思いました。

武田教育長職務代行委員

ちょっとよろしいですか。

山田市長

はい、お待たせしました。

武田教育長職務代行委員

今しみじみと感無量な思いで皆さんのお話しをお伺いしていました。

今からちょうど10年前、教育委員会の施設専門員ということで新図書館を作りたいので基本計画を立てなさいという前市長さんからの指令がありましてそれで一生懸命頑張らせていただきました。

震災があったために建設が3年以上遅れてしまったのは残念なんですけどもその間に館長さんを中心に生涯学習課の皆さんや教育長さんのお力をいただきながら今この形で新しい図書館ができあがるっていう、夢が大きく広がった図書館だなというふうな感じで伺っておりました。

計画を立てた人間として、どんな図書館になるだろう、来年の12月がワクワクドキドキでそういう思いでおります。それでいろいろ感想も含めてちょっと外れるお話しになるかとは思いますが、お聞きいただければと思います。

3つのテーマ「やすらぎ・つどい・ひろがる」というテーマは、立てた張本人が言うのも申し訳ないのですが決して間違っていないというふうに思いました。というのは多賀城の図書館ができあがった。来館者が非常に多い。市民も集って非常に賑わいを見せているっていう形なんですけど、多賀城の図書館以上にこの「やすらぎ・つどい・ひろがる」というテーマはおそらくあの図書館を越えている勢いのある図書館だというふうに感じております。

それも今お話しがあったように、こういうふうにしますよ、ではなくて市民の皆さんにアイデアをいただきながら育てるっていう姿勢で新しい図書館作りに入って頑張っているっていう、そのところが一番大事じゃないかなと思うので、今後ともそのやり方で頑張りたいなという気がします。

それをお願いなんですけれど、図書館だけ図書館で全て賄うにはなかなか図書館の職員が少なかったりそれからいろんなアイデアをいただいてまとめていく力もなかなか図書館の人達だけではたいへんなので、同じ建物の中に増田の公民館ができます。そことのコラボレーション、それから建物は違うんですけど生涯学習課の皆さんと一緒に市民と一緒に作り上げていく図書館っていうのをこれから模索していただきたいというふうに思います。

そのためには市長さんにはたいへん申し訳ないのですが、縦横無尽に動ける人材、図書館のニーズがこうあった、公民館からはこうです、住民の方からはこういう願いがあります、というのをまとめたり広げたり増やしたりしていくっていう人材、なんていうか仕事、そういった事をする方がいるかないかっていうのは大きな力になるだろうというふうに思いますので、そのへんを教育長さん中心にいろいろ考えていただければなというふうに思っております。

図書館だけに任せるのではなくて図書館と一緒に市民と一緒に作り上げていく新しい図書館、それが今日の資料の中に一番最後に3つの実践が載っていますが新しい図書館というのは今市民に発信してやっていく公共施設であるというふうな全国の実践が載っておりましたのでそれに負けないぐらいの力が出て来るんじゃないかなと思います。

それからもう1つなんですけども、これだけはぜひお願いしたいと。図書館に学校図書館支援センターというのが今機能してあります。名取の教育の大きな課題のひとつの中に「子ども読書活動」と「学校図書館をいかに活性化させていくか」という大きな柱があると思います。それを支えていくのが学校図書館支援センターだと思って、基本計画の次に考えたのが「学校図書館支援センター案」というのがありましたので、それも含めて子どもの読書をどういうふうに高めて広げていくかっていうのが名取の教育の大きな力になるだろうということです。各学校には司書さん達がいます、図書館担当の先生方もいますのでどういうふうにしていくか、それから図書館担当の先生方だけではなくなかなか難しいので、教材を選定したりコンテナにして各学校まわしたり、そのへんはカリキュラムに合わせた図書館の本をうまくこう利用して各学校に読んでもらったり活用

してもらるか、そのへんは先生方と一緒に図書館の司書さん達や生涯学習課の皆さんと一緒に作り上げていけば、単なる本だけじゃなくて活用できる子ども達、活かす子ども達、考える育てる子ども達になっていくんじゃないかなというので、新図書館と併せて支援センターを膨らませていただければと思います。

最後にまとめみたいになるんですが、やっぱり日本にない名取で光る図書館。図書館だけではなくていい町だよな、名取ってこういう町だよなって思えるような図書館、図書館が中心になっていろんな活動ができる名取市、そんなのがいいかなっていうふうに思いながら今話を聞いていました。ぜひ来年の12月に向けていくらでも準備できたり育てたりするところがあるかと思うんですが、できるだけお力になるような支援をしながら待ちたいなというふうにあります。

山田市長

はい、ありがとうございました。

武田教育長職務代行委員

長くなりました。

山田市長

多賀城を越える賑わいのある図書館っていうのは私もそうあるべきだと思っています。そうできるというふうに感触としては持っていますので、あとはしっかりそれを作りこむというかそれは結果論ですので、それだけの賑わいのある図書館、それだけの中身のある図書館にできればなと思います。

先生今おっしゃった、増田公民館と図書館をつなぐ人間なり職務というところをもうちょっと詳しくお伺いしたいんですけど。

武田教育長職務代行委員

市の職員の中にはそれぞれ教育委員会の中にも生涯学習課があり、図書館があり学校がありいろんなところがあるので、それぞれが別個に動いてしまうとつながりがつながらなくなってしまうわけですね。例えば、公民館に集まった人達がちょっと図書館に行って調べてみようとかあるいはこういうのを図書館で考えてやってみたいんだけど、公民館の研修室とか調理室を借りて実践をしてみる。あるいはそれと併せて何かひとつの発表をしてみようとかつながりがないとできないし、それをコーディネートしていく、図書館で今こういう活動をしているんだけど公民館で空いてませんかとか、何かできませんかねとか、こういう繋いでいく人、役割を持っている人がいるかいないかは大きいと思うんです。独立独歩でやるんじゃなくて今館長さんもお話しになってたように、そういった繋ぐ人繋ぐ役割を持った方、それからそれができる市民そういったのが必要になっ

てくるんじゃないかな、必ず課題として出て来ると思います。その時に「そういうのはできねっちゃ、難しいよね」と言ってしまう名取市であったり教育委員会ではやっぱり市民の文化というか育ってはいかないと、そういうのをやってくれる方そういう方がいるといいなあという話です。

山田市長

学校教育課と生涯学習課ということもありますし、同じ生涯学習課の中に公民館係と図書館ということはあって、もちろんそれぞれ連携しながらやってる部分は多いと思うんですけど、なおそのルートをしっかりつなげるような具体的な事を考えて欲しいということだろうと思います。この件についてはぜひ考えていけたらなというふうに思います。

他に何かございますか。

武田教育長職務代行委員

付けたしですが、そうなってくると、いつも市長さんの懐具合を心配かけなきゃだめなんですけど、やっぱりいろんな活動、これからのICTのやつもあるんですけど、やるにはやっぱり人、物、あとは金銭的な支援を含めて後押しができないとなかなかこううまく転がっていかないところがありますので、財政的には大変だなと思うのですが、一応光るものを光らせていくためには少しでもそういった議会の皆さんもそうですし市長さんのご理解もそうですけれども、そういったものがあってこそはじめて動くんだろうと思いますので、後押し方よろしくお願ひしたいと思います。

山田市長

ここで、ただ、はいと言うと問題がありますので、私、昔会社で、「金が無ければ知恵を出せ、知恵が無ければ汗をかけ」と言われたこともありますので、そういったことも踏まえて全体のバランスをみながら考えてまいりたいと答弁させていただきます。

本当にいずれ非常に魅力ある名取の新しい顔になろうかと思えます。単に情報の拠点、市の財産というだけではなくて、人の交流であるとか賑わい、元気が生まれてくる拠点になると思えますので、ぜひいいものを皆で知恵を絞って作っていったらと思えます。

私の方から実はありまして、今般、絵を書いたり、なにか美術的な芸術的な才能のある方からさまざま寄附をしたいというようなお話しをいただくことがあり、ただ市役所の庁舎も意外と手狭になっていてそういったものを飾れないとかいうことがあるものですから、もちろん今の図書館だって本の数をできるだけ増やしたいとなればできるだけ有効に活用したいとなればギリギリの中でいろいろと計画されているんだろうとは思いますが、ある程度美術と芸術の森じゃないですけど絵画であるとか何かそういったちょっとした美術品であるとかを展示できるようなスペースはある程度確保していただければ

ないかなと思います。もう詳細設計とか入っているのでなかなか難しいところがあると思いますが、「いやいやスペース的に全然無理ですよ」というのではなく、そういった例えば名取にある市の財産とかそういった物を展示したり市民に広く見ていただける、本当に人がいっぱい来るようにしたいと思っていますし、来た人が美術芸術の部分でもある程度満足したり納得したりしていただけるような場であってほしいなと願っています。

それから先ほど懐のお話しもしていただきましたので、これはまだ自然体で考えていくことでありますけど、新しい財源というのを今クラウドファンディングとかやっていますけれども、ネーミングライツもそのひとつだと思っています。ここの場所は複合施設なので非常に難しい部分はあるんですけども、ただ図書館として何かネーミングライツのようなもので逆に発信していくというやり方もあるのかなとまあ主としては財源にもなりますし広く周知していくということでは例えばそれに対してお金を出す側にとってもそれだけの価値がある理由を私は必要だと思うんですね、なのでそういった事も考えていけたらなと思っています。

あとは館長視察に行きましょうね。先ほどご紹介いただいた先進地に。

武田教育長職務代行委員

あの付けたしではないんですが、あの今出てきたのは図書館、公民館いろんなところがあるんですが、まあ畑は違うかもしれませんが、もうひとつ名取には文化会館というのがあんです。組織も仕組みも違うんですけども、すばらしい絵を寄贈したいという方達がいらっしゃるんですから、ある意味では文化会館とも連携した図書館というのもありかと思しますので、そのへんのところうんと狭い捉え方ではなくて、せっかく市民文化会館という立派なやつがありますのでそういったのを連携しながらひとつのものを作りあげていくっていう姿勢を持つ事、これが図書館だけに限らない新しい名取の文化作りに繋がっていくかと思しますので、よろしく願います。

山田市長

施設管理者の問題とか設計者の問題もありますけど、できる限りそういった連携を図っていったらと思います。

では新図書館については、このへんで終りにさせていただきまして次の議題に移らせていただきます。

それでは次に(2)「ICT教育の充実について」ということで議題とさせていただきます。

委員の皆さまには10月にゆりが丘小学校で行われました授業公開に参加していただいておりますので百聞は一見にしかずということで説明は不要かとは思いますがまずは簡単に事務局のほうから説明させていただきます。

及川理事兼学校教育課長

それでは資料に基づきましてICT教育の取り組みについて説明させていただきたいと思えます。

ICT教育をICTを活用し教えることと捉えまして、授業等のどのような場面での活用が有効なのかまたは使わない方がよい場面とはどのような場面なのか、それについてゆりが丘小学校において実践的な研究を進めているところです。その様子を10月17日の授業公開、研修会でご覧いただいたかと思えます。当日ご覧いただきました授業は、図工、社会、体育でしたけれども、これまでには算数、理科、音楽等での活用も実践してまいっております。

実践してきた成果としては大きく2点ございます。

1つ目は学習効果についてです。今日新たにお配りしたモデル事業の報告書と資料編がございますけれども、これについてはかなり多くの内容ですのでご覧いただければと思えますが、その中にも児童の感想がありますが、その児童の感想とは「教材や教師の説明が分かりやすくなっている。自分の発表や他の児童の発表が分かりやすくなったこと」があげられています。読んでいきますと、音声だけではなくて視覚的な要素を伴って説明することで理解が容易になり分かったというふうに感じるかなと思えます。教科や単元によらず教材と児童、教師と児童、児童同士のコミュニケーションツールとして有効であることがわかって来たのではないかなというふうに考えております。

2つ目は時間に余裕を持てるようになったということです。算数の授業では導入での課題理解というのが比較的余裕になりまして時間短縮が図られて授業の最後の方に来ます適応問題に取り組む時間ができたということが揚げられております。普段の授業でみますと最初に教材授業の部分でたっぷり時間かけて最後にまとめまで持って行くのですが、その後適応問題までいかないというようなケースも多々みられます。ゆりが丘小学校ではこのICTの前の段階から適応問題まで持って行って、そして理解したこと、分かったことを使って問題を解いてみようということを進めてきていましたが、それがこのICTの利用ということで余裕をもってできるようになったということが言えます。

また、教材準備の時間短縮がはかられたことで授業の実態にあった資料の準備ができるようになりました。

私も以前視聴覚教育ということでよくOHPなどを使っていました。TPシートは、1回作るとずっと何回も使い続けて、その子ども達に合ったように代えるというのがなかなか難しいというところがあるんですね。だからそれに関しては準備の時間が短縮できるということで、その時その時に子どもに合った教材ということ準備できるようになったかなというふうに思えます。

また、作った教材を教員間で共有し、そして改善して活用できたということも挙げられております。結果として余裕ができて児童と接しコミュニケーションする時間が生みだせることが成果であると思えます。

課題としても大きく2つ考えられます。

1つ目は目的を意識した活用が必要であるということです。機械があるから使うということではなくて、どの場面で使うか、使わないほうがいいのか、どんな活用が考えられるかということをしっかり意識したうえでの活用という事が大切だということです。

タブレットの特性を踏まえ、学習活動のどんな場面で使用し、どんな効果を期待するか。有用なイメージを持って活用が必要だということです。これにつきましては実践の累積と共に機械とか機器アプリケーションの特性を踏まえた活用を目指すことが解決の糸口であるのではないかなというふうに考えております。

2つ目としては、管理運営面での課題です。管理用コンピューターが必要になったということで導入しました。子ども達に40台、子ども達用としてタブレットを準備したわけですが、それにアプリケーションを入れたいと考えた場合は、やはり管理用のコンピューターが必要だということがあります。またLANの環境整備。無線で使う場合、有線で使う場合、それぞれメリットデメリットがあるというところでその環境をきちんと整備していくことが必要である。またスクリーンの選定についてもいろんな意見があります。今は黒板にペタッと貼って使うと言いますか、スルスルッと引き伸ばして使うというふうなスクリーンを使っているのですが、反面黒板の利用できる面積が少なくなるというところがありますので、別にスクリーンを持って来て黒板、スクリーン、マルチスクリーンみたいな感じで使えるような選定なんかも必要になってくるかなというふうに思いました。また機器の利用にあたっては研修の必要性なども挙げられているところでございます。

ゆりが丘小学校での実践をとおして出てきている成果そして課題ということでお話しさせていただきました。以上で説明を終わります。

山田市長

はい、ありがとうございました。

実際皆さんご覧になっていますので、中身については子ども達がどんな形で取り組んでいるかということをご存知だと思いますが、授業公開の感想なども含めて皆さんからご意見をいただきたいと思えます。いかがでしょうか。

相原委員

この間見せていただいた授業参観といいますか、なんか非常に有効に活用されていて、このICTを使うことによって視覚的に子ども達の理解が深まるということがもう間違いない事実だろうと、この間見せていただいた体育とか数学、算数の中で図形とか良い面っていっぱいあるんです。さっき説明あったように、使ってはならない場面ってなんかどうもありそうな気もするんですね。算数で言うと、図形とかについてはいいんだけど、どうも割り算とかのところをやっちゃうとなかなかこう具体的に考えるという

ことよりも、電算みたいに答えが出てしまうというあたりのところを、その使い分けとかね、先ほどの説明にもありましたけれども、こういうところでは有効活用ができるし今まで以上に児童生徒の理解が深まるというのが間違いない部分ではあるんだけど、逆にこういうところでは使っちゃダメだというのがなんか体験的に分かりつつあるんじゃないかなと思うんですよね。だからそのへんを教員のところで情報交換して共有化していかないと、ただ使えばいいというわけにはたぶんいかないだろうなという感じがちょっと印象としてあります。あのこの間のは非常に面白かったと思います。

山田市長

はい、ありがとうございました。

そうですね、タブレットを使うと計算なんかもすぐできちゃうんですかね。ネットでつないであれば、できるのかな。

及川理事兼学校教育課長

使用しているタブレットは、アイパッドですが、組み込みで電卓も入っております。画面が電卓になってしまうことがあります。

相原委員

どっかの学校で、どうしてこんなに割り算できないんだらうっていう話になったら、どうもそれが影響しているんじゃないかっていう中学校でのちょっと情報としてあったので。

山田市長

考える力が衰えるようじゃだめですね。

武田教育長職務代行委員

すごい時代になったもんだなと。今使い分けっていう言葉があったんですが、それも大事な力で、電卓使えば掛け算割り算足し算引き算全部できるんですが、電卓は物の考え方でなぜそうなるのかっていうのは教えてはくれないわけで、同じタブレットを使って使う事はいくらかでも活用もできますがなぜどうして、なぜそうなるのかっていうのは教育の一番育てていかなければならないベースだと思うんです。それをはずさないでしっかり教えて育てていく必要が、やっぱり子ども達にはあるんだらうなというふうに思います。

二つ目は、子ども達だけが活用能力とか活かす力が出てきてもだめなんで、親とかあるいはそれを使ってない兄弟とか、地域の人まではどうかわかりませんが、そういった人に理解してもらって「なるほどね」って頷いてもらう、そういう環境、教育環境って

いうのかなそういったのをどういうふうに育てていくかっていうのが課題だなと思いました。

三つ目は、やっぱり先生方の力が無いとこれも活用できないな。先生方の研修の仕方それから活かし方、情報交換、先生方の切磋琢磨っていうんでしょうかね、その辺のところややっぱり付いてくる課題だろうなと思います。

ゆりが丘小学校での研究がここでおしまいではなくて名取市全体としてどうしていくかってのがこれからの課題だと思いますのでどう広げていくのか、それがやっぱりこれから私達が考えたり、やって行くことではないのかなというふうに思います。

小学校である時使った子ども達が、中学校に行ったら何にもできなくてまた元に戻ってしまうというのではなくてやっぱり小学校でやったことを中学校の先生方が理解し、じゃあ俺たち中学校区では小学校で他の小学校に広げていかなければだめだし、中学校ではこういうふうに活かしていかなければだめだっていう流れが出てきてはじめてこれが活かされる活動になるかなっていうふうに思いますね。その辺のところを含めて長い取り組み方が必要だとは思いますが、せっかくここまで育てた子ども達を活かしていただければありがたいなというふうに思います。

山田市長

はい。「電卓はなぜそうなるのかは教えてくれない」という言葉は深い言葉で感銘を受けました。ありがとうございました。

あとは中学校たしかにそうですね。小学校段階でのそのタブレット、ICT教育のありかたと中学校でのありかたっていうのを将来的にはでてくるのかなっていうことで、これ言えば言うほど大々的に締め付けが出て来るんですけども考え方として非常に大事だなというふうに感じました。

他にいかがでしょうか。

はい、浅野さん。

浅野委員

はい。私もですけどパソコンが得意なほうではないので、ICT教育は何かと、タブレットを子ども達に一台ずつ持たせてする授業なんて必要あるのかなというふうにちょっと思ったのですけれども、それはたとえばテレビの画面を見せちゃいけないとかスマホの画面見過ぎちゃいけないとかいう部分のものもあつたのですけれども、お話を聞いてゆりが丘小学校の授業を見させていただいて「あ、こういう使い方だったんだな」っていうふうに合点がいったといいますか、ああ便利に、避けて通れないっていうよりはもうそういう時代ですし、そういう流れでもってやっていくものなんだなというふうに思って、なので体育のとび箱の授業で、やっぱり人にただ言われてこう違うんだよって言われてもわからないことが、自分の姿を撮ってもらって観ることで「ああそう

か」ってわかるところもあるんだなっていうふうに思って、その使い方がきちんとしていればとてもいいことだと思うし、あとは普通の授業社会とか算数にしてもまずは先生方の授業の準備の負担が減るって事がまず一番いいんだなというふうにも思ったので、上手に取り入れてって子ども達が学ぶ意欲につながればいいなというふうに思いました。

ただ勉強が嫌いな娘には「なんで勉強しなきゃいけないの」って何でもアイパッドで調べられる辞典代わりになって計算もすぐできるのになんで勉強しなきゃいけないのと言われて、算数数学にしても消費税何%ってかかる時、ぱっと計算できたほうが良くなかっていうふうにしか言えないような感じで、なぜそうなるのっていうのが私もなかなか言えないのでそういう部分をきちんと、なんで勉強しなきゃいけないのかっていうことをきちんと先生方に教えていただいた上で有効活用していってもらったらすごくいいなというふうには思いました。

山田市長

最後のはちょっと深いですね。

なんでも調べればでてくるのに、なんで勉強しなきゃいけないのかと言われたら、教育長何てお答えしますかね。

瀧澤教育長

前に浅野委員さんとも話したことがあるんですけども、私の娘が中学生の時に数学が苦手だったんですね。一応私が教えたんですね。「お父さん、因数分解なんかできなくて私生きていける。足し算掛け算割り算引き算ができればたぶん生きていける」たぶん嫌いだからやりたくないから言うんですね。たしかにアイパッドを使えばなんでも出て来るし、覚えなくても調べれば出て来るし、小学生の子と中学生の子と高校生の子とは違うとは思うんですけど、自分で新たな物を作って想像するとか考えていくとかそういう時にはやはり自分で身に付けたもの覚えたもの考え方とかそういったのがないと生み出せないんじゃないかと思うんですね。そういう力っていうのは自分で学習して身に付けていくというところで、電卓で計算しても答えは出るけどなぜそうなるのかはわからないで数字だけ出ると、仕組みを理解したうえで「 $A \times B - C$ 」というのがイメージしながら計算するのとただ数字だけ、それは日常生活に応用はできないと思うんですね、生活の中に。答えは出ますけれどもね。ペーパーテストで問題があって答えだけなら電卓で出きるけれども、実際の生活の場面で本当に単純な足し算引き算掛け算割り算を使うっていても意味がわかってないと活用も何もできない。そういったところじゃないかなと思うんですけどね、ただなかなか子どもに聞かれると子どもも納得するような答えっていうのは非常に難しいと思う。

武田教育長職務代行委員

はい。今のが一番これからの教育のあり方ではものすごく大事なことで、文科省も誰も何も言ってくれてないんですよ。生き方教育とか活かし方教育とか己をどういうふうに高めていく力をどういうふうに育てていくための学習とか、そこらへんのところが小学校とか中学校とかあるいは高校大学も含めて、「あなたはどういうふうに生きていくのですか、そのためにどういうふうな力が欲しいですか」「どういうふうに活かしていきますか」そういうひとりひとりの力があるいはそういうのをどういうふうに子ども達に手を差し伸べていく教育なのか、そこらへんのところが今ブレている時代なのかな。

ですから生き方とか自分の信念とかグラつかない人間をどうやって育てていくか、それがしっかりしていけばどんなものが出てきてどういうふうに使おうがそれが問題ではない。生き方そのものが問題になってくるそういう教育が今必要ですよって逆に問われているような気がします。ブレない教育。

瀧澤教育長

今年増田中学校区で取り組んだ「志教育」ですね、あれはまさにどう生きていくかっていう子ども達自身が将来の夢とか希望とか志を持って社会とか人と関わりながらどういうふうな役割を果たしていくかっていう観点での、ちょっとICTとは離れますけれどもやっぱりベースには子どもが将来どう生きていくかっていうそのために必要なものっていうのが、学校の中でいろいろ学んだりしていくこと。ただ算数の授業の中で志を持たせるといのはなかなか難しいですけども、トータルで学校教育の中で育てていかなきゃいけないんじゃないかなと思いますね。

山田市長

はい、ICT教育から志教育へ。

武田教育長職務代行委員

でもICT教育っていうのはこれから今生きていく子ども達にとっては、生きていく材料っていうかそういったものとしてはアイテムというか、こういったものを持っていれば生きていける力が膨らんでいくわけですよ。例えばタブレットなんか。私達は使えませんが。今の子ども達なんてこれから生きていくのに必要なもので、必要欠くべからざるものですから学んでいったり身に付けていくのは当たり前なんです。ただいつの時代もどう生きていくとかどう人と関わっていくとかどう愛していくとかそういったものは全部同じなんだね。そののところをしっかりと踏み間違えないで使わせて育てていかないかぎりこういうのはいくら入ってきても、さっき言った「どういうふうに使ったらいいの」「使わない時はどうなの」とか間違った使い方をしてみたり、そういうふうに踏み外したりすることがあるので、基本は忘れないで育てていくっていうことが一番大事なんじゃないか。どんどん膨らませて進めていって高めていってもうオーケーだと、時

代に合せて。

山田市長

はい、まとめていただきましてありがとうございました。
他、洞口さん。

洞口委員

今武田先生がおっしゃったのはもっともだと思います。

この間ゆりが丘で大変楽しく拝見させていただきました。それで、私も思ったのですが時代の流れに沿って20年前思い出しますとICTの教育っていうのは本当に考えもつかなかったことだと思います。

私もちょっと思ったのですが、このタブレットとかそういうのに頼り過ぎてしまって、例えば辞書を引くことをできなくなっている子ども達とか、そういう事をちょっと心配しております。だから先ほどご説明があったようにメリハリをつけた教育ですね、そういうのをきちっと教えていただきながらタブレット、ICT、コンピュータ関係もですね、東日本大震災が起きた時のように長く停電が続くとかそういう時にどの様な、それは使えなくなるのかというようなことを子ども達に、こういうふうに使えなくなったらこうするんだとか、やはり自分達でも調べなくちゃいけないというようなことも教えていただきたいなと思います。以上です。

山田市長

今のはアナログのことですよ。デジタルに頼り過ぎちゃうといざ何か大災害の時にアナログ的なことに対応できない、生きられないとかですね。なるほど。そのとおりですね。

瀧澤教育長

私も最近、子ども達が今使っているのと同じアイパッドを買いました。本当にいろんな事ができますね。今ちょっとおもちゃを買ってもらった子どものように喜々として、いろいろ使ってます。

それはともかく、さっきの及川課長の話の中に、子ども達が友達の話とかが非常に分かりやすくなったとありますけど、今民間とかでいろんなプレゼンするのが当たり前になってますよね。プレゼンのソフトを使って文字、写真、グラフいろんなのを使って説明する、プレゼンテーションする。ただやっぱり言葉だけで説明されるよりは本当に格段に理解が深まると思うんですね。

それで、学校の中でも視覚的な手段っていうのはいろんなOHPとか使われてきましたけれども、子ども達が友達に説明する、自分の意見を発表する、それをクラスのみん

なにきちんと分かるように説明する、そして話し合いとかが深まっていくという時にやっぱりそういうプレゼンテーション能力って考えた時に、言葉でしゃべることも大事だし言葉だけで相手に理解してもらってというのも大事だと思うんですけども、そういうツールとして使うってのは非常に大事になってくるんじゃないかなと思うんですね。

時間短縮の話も出てましたけど、昔私が先生に初めてになった時にいろんなこういう資料とかはガリ版と鉄筆で書いて謄写版で一枚ずつ刷るっていう、そうすると学校の教育計画っていうのがあるんですけども、今は去年使ったのを手直しして、変わった所だけ直すっていう、データが残ってますので、昔はそれができないので毎年同じことに時間をかけてそれが何年も続いてたんですね。そういった意味ではかなり効率化してきたなと思います。

あと、私が若い頃、社会の授業が結構好きで、写真を撮ってスライドにして子ども達に授業で見せたんです。やっぱり視覚に訴えるっていうのが大事だって先輩から教えられて、その頃写真を撮ってスライドにするためには、ユニバーサルフィルムという独特のフィルムを買ってきてカメラに入れて写真を撮って、一週間ぐらいしてスライドができ上がってくるっていうかなり手間暇がかかったし、それに文字を入れようなんていうものは一回写真にプリントしてそれに字を書いて更にユニバーサルフィルムで写真に撮ってスライドにする、そんな苦勞をした覚えがあるんですけど、今だったらこれを持って行ってぱっと撮ればすぐ写せます。ただちょっとそこに潜む危険があるような気もするんです。手軽にできるけれども、前は時間をかけていろいろ、一文字ずつですからガリ版なんか。そうすると否応なしに考えるんですよ。頭の中で文字を文章をもう一度反芻しながらやっていくのが、ここおかしいとか、ただ今はもう、こういうことも今回使ったものを日にちだけ直して来年使おうなんていうのはよくありますけれども、そういう危険性ってのはなんか潜んでる。簡単で時間も短縮できるけれどもなんか抜けてしまうものもあるっていうふうなところは使う側が常に持ってないとダメじゃないかなっていう気がしています。

だからさっきから出ている、使う場面と使わない場面、使わない勇気っていうのを先生方が常に意識していかないとダメじゃないかな。

いくら時代が進んでも私は、黒板とチョークとノートと鉛筆で子どもが書くというのは大事にしていかなきゃないと思うんですね。

さっき洞口委員さんが、これでやれば言葉の意味は全部出てきますので、ただ辞書を引く、国語辞典で意味を調べるとか英和辞典で調べるとかっていうあの作業っていうのはやっぱり必要だと思うんですね。これでぱっと出てきてわかるっていうのではなくてね。だから使い方を間違えると思考力を減退させてしまう、考える力がなくなってしまう。そういったところを十分に踏まえて、ただ間違いなくこれから子どもには必要なツールになってくるし有効に活用すれば非常に時間も節約できて、新しい指導要領でアクティブラーニングといわれていますけども、主体的で対話的で深い学びってのにつなが

るような学習を組むのに非常に有効だと思うんです。

今使っているのは、ゆりが丘小学校だけですけれども、来年度開校する関上小中学校にも導入させていただける。あと他の学校で指導主事訪問の授業を観るとタブレットがあったら楽だよなあという場面がいくつかあるんですね。ですからこのへんについては何年計画かであっても、なんとか他の学校の子ども達も活用できるようにご配慮いただければと思います。

山田市長

はい、ありがとうございます。

最後の部分は答弁を控えさせていただきます。

それではICT教育についてはこのへんで終わらせていただきたいと思います。

次に最後、その他ということになりますけど何かございますでしょうか。

事務局から何かありますか。

相澤教育部長兼庶務課長事務取扱

事務局からは特にございません。

山田市長

はい、それでは協議事項については以上とさせていただきます。

では事務局にお返しいたします。

相澤教育部長兼庶務課長事務取扱

はい。本日は、大変活発な意見交換をしていただきまして、ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、第6回名取市総合教育会議の方を終了いたします。

ありがとうございました。